

〇〇もんずら

奥島教育長コラム No.18 2024. 9. 1

わがふるさと

真っ青な空、繊細で透き通るような雲が本当に美しかった。目の前には太平洋、水平線がどどーんと力強い。光る波間に小さく見えるのは、漁をする船か。

「おおーい、アメリカが見えたかい。」

先を歩く生徒達に、声をかけた。だが、教室から解放された生徒たちはおしゃべりに夢中で、背後からの声は届かない。普段とは違う足裏の熱い感触が、おしゃべりを勢いづけている。

「これが、砂丘なんだ!」「ここ、東通村だよな。」「不思議だけど、なんか嬉しい。」

大沼近くに一番大きな砂丘が広がっていた。初めて見る砂丘に足を踏み入れながら、生徒たちは自分の足裏で故郷の大地を体感している。驚きを楽しむ生徒たちの会話が、同行した大人たちの歩みを引っ張る。遠くに尻労の集落が見えた。尻労ウインドファーム、桑畑山、片崎山・・・砂丘から見る

故郷の景色が胸を打つ。砂丘を下り足元を見るとカリフラワーのような実をつけているのは、ハマボウフウか。白いヨモギ、黄色い可愛い花はハマニガナ?



東通村の太平洋沿岸に、砂丘が広がる。幅は約1～2km、総延長約17km。鳴き砂やヒバ埋没林がある。大小様々な湖沼がある。日本最大の大きさと言われる猿ヶ森砂丘だが、ほとんど知られていない。砂

丘の大部分が防衛省の試験場となっているため、通常立ち入ることができないからである。

「東通村の誇るべき財産である猿ヶ森砂丘を歩かせたい。」

東通中学校の要望が受け入れられたのは、平成25年9月。それ以来砂丘体験は続いている。

子供達は東通村を五感で体験し、自分の住むふるさとを理解する東通学・東通科を学んでいる。村の人・自然・産業・文化等を学ぶ。こども園ではブルーベリーや枝豆等の収穫体験、消防署や施設の慰問・交流等で村の人、ものと出会う。小学校では村の産業（農業・水産業を中心に）の特徴を学んだり、食文化を学んだり、自然・名所を訪ねたりしてそのよさに気づく。中学校では自然環境や特性を生かして働く村の人々や組織を新たな視点で見てふるさとの価値を再発見し、未来を考える学びにつなげている。ふるさととは生きる力の源泉だ!

